

食育講座 「親子で学ぼう Let's Cooking!!」

西九州大学短期大学部の西岡先生、武富先生と学生さんの協力により、食育講座を開催しました。今年は、バランス食を学ぶ！考えて食べようをキーワードにキーマカレーやれんこん入りハンバーグを作りました。



なかよしミックス

今月のなかよしミックスは、わらべうたのコダーイ研究会の富永先生を講師にお迎えして親子でわらべ歌を楽しみました。心地よくて眠ってしまった子もいましたよ(*^-^*)



「シニアサロンぽぽら」に遊びにきませんか

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。今月は、保育園児の発表をご覧ください。振ってご参加ください。

日時：9月12日(金) 10時から12時
 内容：「敬老の集い」保育園児との交流を楽しんで下さい
 場所：さんこう・ぽぽら
 電話でお申し込み下さい。 TEL 31-6877

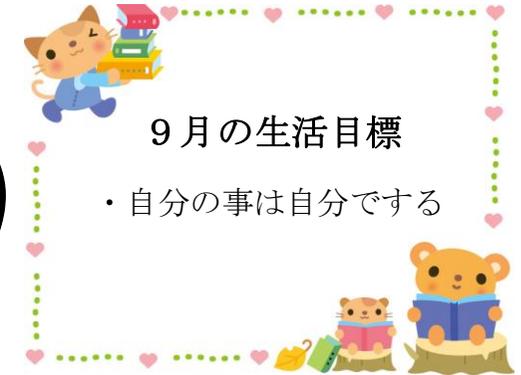


♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。
 ※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。



永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
 2014年9月発行 第88号
 認定こども園 西九州大学附属三光保育園
 TEL: 0952-31-6877



9月の生活目標

・自分の事は自分でする

新しい制度が始まります！

平成27年4月から、子ども・子育て支援法という新しい法律が施行されるため、来春入園を予定されているご家庭から、幼稚園や保育所(園)、認定こども園における入園方法等に変更が出てきます。詳細は、佐賀市役所や各園において準備中ですが、この法律の目的は、「全ての子どもの最善の利益」を考えた施策が実行に移されていくことだといわれています。家庭で子育てをされている親子も、通園をされているご家庭でも、子どもが成長していく過程の環境が改善され、日本で育つ子ども達がすくすくと伸び伸びと、社会の全ての大人によって見守られ健全に育成されていくことを望みたいと思います。

7月から8月にかけて、幼保に勤務する職員は様々な研修を受けました。新制度の理解も含みますが、養護と教育・保育の内容をさらに充実させるためのスキルアップの研修も多く実施されました。本園でもわらべうた、環境教育、茶道、器楽、モンテッソリ教育の理論や提示、福祉制度等々、意欲的に取り組む先生方の姿に元気をもらいました。

ぽぽらの活動も活発になりそうですね。親子で楽しんで下さい。(三光保育園長)

「なかよしミックス」に遊びにきませんか！

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。
 ★第6回目の9月は、下記の日程で実施します。

日時 9月18日(木) 10:00～12:00
 9月26日(金) 10:00～12:00

内容：砂遊びを楽しむ
 持って来るもの：着替え・帽子・コップ
 場所：地域子育て支援センター「さんこうぽぽら」
 ※事前のお申し込みが必要です。受付は、平日9:30～17:00
 (いずれの日も先着16組の親子)



9月の「フリーデー」について

保育園の支援センターを下記の日程で開放します。お好きな時間にお出かけ下さい。
 日時：9月29日(月)・9月30日(火) いずれも10:00～12:00・13:00～16:00
 ※事前の連絡は必要ありません

「幼児からの算数教育のススメ ～かたちのパズルの紹介～」

西九州大学子ども学部講師 川上 貴

みなさん、算数教育は、いつから始まると思いますか。小学校に入学してから始まると思っている方が多いのではないのでしょうか。確かに、本格的に算数教育を開始するのは、小学校段階からです。しかし最近では、幼児期からの算数教育が、世界でも注目され始めています。

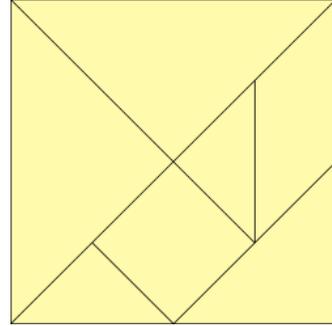
そこで今回は、お家でも手軽にできる「かたちのパズル」をご紹介します。小学校では「図形のパズル」、われわれ大人は「タングラム」と呼んだりするものです。玩具店などでも売っていますので、手に入れ易いです。

小学校1年生の算数の学習の中でも、三角形や四角形といった図形を学習する前に、素朴にかたちに慣れ親しみ、かたちの色々な特徴（「先がとんがっている」、「こことここが、くつつく」など）を「かたちづくり」の活動を通して見つけていく学習があります。幼児期の子どもたちにも、こうしたパズルと親しむ環境をつくってあげて、「こういう形をつくってみてごらん」、「じぶんで好きなかたちをつくってみてごらん」と声をかけたら、遊びの延長として楽しんで学ぶ機会になるのではないのでしょうか。

実際、昨年12月に西九州大学子ども学部主催の「子どもミュージアム」というイベントで、私の算数教育のゼミ生が、幼児期の子どもたちや小学校段階の子どもたちを対象に、上で紹介したタングラムに触れてもらう企画を行いました。大きいタングラムを用意して、かたちのシルエットにタングラムのピースを当てはめて完成してみようというものです。出来たときの子どもたちと喜びの笑顔が印象的でした。

写真では、シルエットの直角三角形のところに、残り3枚の直角三角形のピース（一番小さい直角三角形のピース2枚と中ぐらいの大きさの直角三角形のピース1枚）を入れて「お家」が完成です。さて、どのようにあてはめればよいのでしょうか。みなさんもぜひ考えてみてください。大切なことは、お子さんと一緒になって保護者のみなさんも「あ～かな」「こ～かな」と楽しむことです。そうすると、お子さんも親の楽しんで考えている姿を真似するようになります。

幼児期の子どもたちは、遊びの延長として「かたちのパズル」に触れることを通して、自然と「この黒いところ（シルエット）と持っているさんかく（ピース）が同じだ」、「これとこれをくっつけるとさんかくになる」といったことを考えることができます。こうした素朴な「かたちの感覚」が小学校段階で学ぶ図形の学習で生きてきます。ご家庭でも、お子さんと楽しみながら気軽にやってみてはいかがでしょうか。



「人生最初の1,000日の栄養」

西九州大学健康栄養学科教授 久野 一恵

自分の子どもが成長して家を出ていって一番心配になるのは食事のことです。ちゃんと食べているだろうか、バランスのよい食事をしているだろうか、気が休まるときがありません。ママ友も同じようなことを言っているので、多くの母親の心配事であるのは間違いないと思います。子どもの下宿に行ってみると、昔よく食べさせた料理を同じように作っているので、食習慣がしっかり染み付いてしまったと責任を感じてしまいます。

さて、この「染み付き」はいつごろから始まっているのでしょうか。最近「胎児期生活習慣病発症説」という説が話題になっています。胎児期の栄養状態が、成人になっても影響するというものです。妊娠から1000日間の栄養状態が勝負だということです。最初、イギリスやオランダでの観察研究からスタートしたのですが、最近はこのメカニズムがエピジェネティックという遺伝子レベルで説明されるようになってきました。胎児期に、母体の栄養状態が悪ければ、生後肥満しやすく成人になって生活習慣病になりやすくなります。知能の発育にも影響します。「国を滅ぼすには妊婦を痩せさせればよい、若い女性のやせ願望を広めればよい」とまで言われています。そして「20歳代女性の21.8パーセントが痩せ（平成24年度国民健康栄養調査結果）という日本は、滅亡の危機に直面している」という専門家もいます。そういう戦略にうかうか乗らないように、出産可能年齢にある方には、しっかり食事をしていただきたいと思います。

かつて調査させていただいたとき、食生活の問題が大きかったのは専業主婦の方でした。家族のことを優先しているうちに自分の食事がおろそかにならないように注意する必要があります。朝は、順番に家を出て行く家族の世話をしながらつまみ食い、昼食はありあわせですませ、午後は小腹がすいて手近にあるおかしをつまみ、夕食はまず子供と1回目ついで帰りの遅いご主人と2回目・・・というようにならないように、ご自身の食生活も大事にしてください。妊娠から1,000日の栄養状態がその子の人生を決めるのだから。